

「キリストに従うように」

申命記

エペソ人への手紙

第5章16節

第6章1節～9節

説教 岡村 恒牧師

「人ではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。」(7節)『仕える』という言葉に従うようにして生き始めると、神に祝福されて生きる喜びを味わい続けることになる、聖書は言います。仕えるという言葉は英語では、『service(サービス)』と言います。礼拝のことも同じ言葉でserviceと呼びます。奉仕と言う意味もありますが、礼拝とは、人間の神への奉仕であるよりはむしろ、神による人間へのサービス(奉仕)だと代々の教会は受けとめてきました。

昔ユダヤ人がエジプトで奴隷であったとき、神がモーセを遣わして解放し、約束の地カナに導かれた途上で十の戒めをお授けになりました。1枚目の板に神と人間との関係を明らかにする4つの戒めが、2枚目に人間同士の関係を明確に示した6つの戒めが記されていたと言われます。「『あなたの父と母とを敬え』。これが第一の戒め」(6章2節)と書かれているのは、2枚目の板の最初に記されていたからです。

聖書は、私たちが地上で豊かに生きるだけではなく、神の前で本当の意味で〈生きる〉ようになるためにどうしたらよいかを描き出しています。神に仕える生き方を選んで生き始めると、あなたの人間関係も、神を中心にしたものとして変えられていく、と言うのです。

私はあなたを救い、生かす者だ。だから、私以外のものを神として拝むようなことをしないで。偶像を作ってひれ伏すようなことをする必要などないだろう。やたらと私の名を呼んで助けを求める必要もないはずだ。そうやって神は、十戒をユダヤ人にお与えになりました。

まず最初に、神がユダヤ人をエジプトの地から救い出して、ご自身がまことの神であられることを明らかにし、「私はあなの神だ」と宣言してくださいました。これはユダヤ人にだけ語られた宣言ではありません。聖書を読み進んでいくと、神の宣言が至る所で響いています。

聖書は、私たちが神と関わりなく生きるなら奴隷と同じだと言います。ユダヤ人は奴隷の地から解放された喜びの中で十戒を受け取りました。新約聖書の人々もそうでした。主イエスの犠牲によって私たちの罪が赦された。そう知った時、あのユダヤの人と同じ喜びが与えられ、そこから新しい生き方へと導かれたのです。

そして私たちが今朝の御言葉を聞いています。主イエスに倣って生きれば良いと。主イエスは神の計画に仕え、自分の愛する弟子達に仕え、自分に敵対する者にお仕えになりました。『仕える』という言葉は自分の身を低くして下に置くという意味を含みます。主イエスは神と等しいお方であられたのに、降って来て人間になってくださいました。十字架に架かって死んで黄泉にまで降ってくださいました。私たちを、絶望の深みから支え生かしてくださいました。

私たちは、自分を高く引き上げ大きくしたいといつも願う者です。しかし主イエスが私たちに代わって降ってくださったことを知る時、私たちも、自分自身を神の前で小さく低くすることができるのです。

私たちの心の、自分さえ目を背けたくなるような暗闇さえ神は知り尽くしておられます。それでもなお、愛し、招いてくださる神です。受難節の歩みの中で私たちは自分自身の罪の姿に目を留めます。しかしそれにもかかわらず、神が下から私たちを支えてくださっていることを思い起こして、主のみ名を讃美するのです。

誰でも主イエスの十字架の苦しみが、自分を死と絶望の奴隷から解放するための苦しみであったことを信じて、その信仰を告白して洗礼を受けるなら、聖餐の食卓の一員になります。主の御からだ、御血潮を味わう者になります。これはやがて世の終わりに、神の国でつく食卓の前味を味わうものと代々の教会は信じ、私たちもそう信じています。

地上に居ながらパンと杯に注がれた物を口にするとき、聖霊の力によって既に天上に引き上げられている。代々のキリスト者はそう信じて喜びを味わってきました。誰でも神の声を聞き、招きに応えて踏み出すなら、必ずこの食卓の一員とされるのです。

主は全ての人に向かって、私の元に来なさい、と招かれました。どうか今、私たちのために最後まで仕え切ってくださいました方を信じて、神に仕え、新しく隣人に仕える歩みに踏み出す。そのような決断をしてください。そうして地上だけではなくて神の国で永遠に生きる約束を握りしめていただきたいと思います。

(記 説教要約奉仕者)